

事務事業名	中小企業販路開拓商品開発支援事業				担当	産業部 商工観光課 商工業係			
政策名	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～				☒ 総重（総合計画重点事業）	☐ 総新（総合計画新規事業）		
施策名	3	工業の振興				☒ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 戦新（総合戦略新規事業）		
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略					事業期間	☐ 単年度のみ		
法令根拠	真岡市新製品開発・販路開拓支援補助金交付要綱ほか各補助金交付要綱						☐ 毎年度実施（開始年度 年度～）		
予算科目	1.一般会計	7.商工費	1 商工費	2 商工振興費	☒ 期間限定複数年度（平成30 年度～ 令和9 年度）				
予算科目									
予算科目									
事業概要	地場産業の振興を図るため、市内中小企業者を対象とした各種補助金を交付する。 【真岡市新製品開発・販路開拓支援補助金】H30～ 補助期間は交付要綱により令和10年3月31日まで。 市内において会社設立又は事務所設置から3年以内で、新製品開発及び販路開拓を行う場合、対象経費の1/2、30万円を限度に補助金を交付する。 【産業財産権取得事業費補助金】H26～ 産業財産権の出願に係る費用の3/4以内、限度額特許30万、それ以外10万円を補助する。 【事業承継者支援補助金】R2～ 市内で10年以上継続していた事業を引き継ぎ、3年以内の中小企業者で、新商品・新サービスの開発又は展示会等の出店を行う際の費用について1/2以内、限度額30万円を補助する。 【小規模事業者支援補助金】R2～ 市内で創業または事業承継から3年以上経過し、新たな販路開拓事業を行う場、新商品・新サービスの開発又は展示会等の出店に係る経費の1/2以内、限度額20万円を補助する。								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）					④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
4年度実績 各種補助金の申請受付、補助金交付					名称		単位	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込)
					ア	新製品開発・販路開拓支援補助金交付件数	件	2	5	0	0	2
					イ	産業財産権取得事業費補助金交付件数	件	4	2	2	3	3
					ウ	事業承継者支援補助金交付件数	件	-	2	0	0	3
5年度計画 各種補助金の申請受付、補助金交付 【新製品開発・販路開拓支援補助事業期間延長R5～R9 5年間】 ・新製品開発・販路開拓支援補助については、創業者支援の観点もあることから、真岡商工会議所及びにのみや商工会での創業相談・セミナーの際や窓口チラシを配布し、周知を行う。					エ	小規模事業者支援補助金交付件数	件	-	7	10	6	10
					オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等					⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
市内中小企業者					名称		単位	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込)
					ア	真岡商工会議所会員数	人	1,536	1,545	1,596	1,600	1,603
					イ	にのみや商工会会員数	人	331	329	333	332	333
					ウ							
					エ							
					オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）					⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
地場中小企業の振興					名称		単位	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込)
					ア	補助金交付件数(4 補助金)	件	6	16	12	9	18
					イ	補助金交付補助金額(4 補助金)	千円	691	2,996	1,779	1,584	3,100
					ウ							
					エ							
					オ							
② 総事業費の推移				単位	31 年度(実績)	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込)			
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0			
			県支出金	千円	0	0	0	0	0			
			地方債	千円	0	0	0	0	0			
			その他	千円	0	0	0	0	0			
			一般財源	千円	691	2,996	1,779	1,584	3,100			
	事業費計（A）			千円	691	2,996	1,779	1,584	3,100			

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 市内中小企業者を支援することは地域の活性化につながる。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 中小企業者や商工団体等を支援することは妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 中小企業者や商工団体等を支援することは、中小企業の振興、地域経済活性化につながるので、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある (評価理由) ・小規模事業者支援補助は、毎年7・8月に募集・審査後に採択していたが、予算額に満たない場合は、追加募集を可能とする。 ・新製品開発・販路開拓支援補助については、創業者支援の観点もあることから、真岡商工会議所及びにのみや商工会での創業相談・セミナーの際や窓口チラシを配布し、周知を行う。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 必要最低限の経費である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) ☐ 廃止 ☒ 見直し(☐ : 目的妥当性 ☒ : 有効性 ☐ : 効率性) ☐ 統合 ☐ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性 ・新製品開発・販路開拓支援補助の交付要件が、市内において会社設立又は事務所設置から3年以内となっており、期間が短いため、見直し等検討が必要と思われる。また、創業支援の観点もあることから、商工会議所及び商工会での相談やセミナー、窓口にてチラシ配布をし、周知を行う。 ・小規模事業者支援補助は、1次募集後も随時受付を行い、意欲的な小規模事業者を支援する。																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上		○																						
	維持																								
	低下																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																								